

竹中家と俳諧

岩手地区菩提にある白山神社境内には、「此山の 悲しさ告よ
ところほり」という松尾芭蕉句碑がある。これは、元治元年
(1864)3月に竹中家家臣の国井化月坊と児玉杜舟により立て
られたものである。菩提の児玉家では、元禄6年(1693)に
芭蕉が岩手を訪ね、「風吹くや 児玉の音の 菩提かな」の句と
自塑像を残したと伝わっている。
実際には、この時芭蕉が当地を
訪れた記録はないが、このよう
な伝承が残っているように、
江戸時代から俳句が盛んな場所
であった。



芭蕉の句碑
(白山神社・岩手地区)

おおの ぜいじゅうぼう

大野 是什坊

芭蕉の高弟、各務支考が蕉風俳諧の普及に力を注ぎ、美濃派を
起こした。祖師である芭蕉を初代として、6世の道統(以哉派)
を引き継いだのが、竹中家の家臣である大野是什坊である。

本名を瀬兵衛親芳といい、傘狂、朝暮園などの号を持ち、芭蕉翁
の百回忌を京都の雙林寺において営んだ。門弟には女流俳人と
して有名な長門(山口県)の田上菊舎などがある。

「横乗りの 旅人もあり 不破の月」

くにい かげつぼう

国井化月坊

国井化月坊は本名を喜忠太義睦といい、文武両道に優れ、菁莪
堂創設時の指導者となった人物である。俳人としての活動は、
安政2年(1855)垂井の本龍寺にある時雨庵を本龍寺の住職
世外とともに俳諧を行う場として建て、安政4年(1857)には
美濃派15世の道統を継承した。

「花に蝶 我も机に 寝たそつな」